

公立大学法人高知工科大学

平成24年度 業務実績評価書（案）

平成25年 月

高知県公立大学法人評価委員会

# 目 次

第1	評価の基本的な考え方	1
第2	評価の結果	
1	全体評価	3
2	項目別評価	
①	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置	
1	教育の質の向上に関する目標を達成するための措置	3
②	同上 2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置	4
③	同上 3 社会貢献の質の向上に関する目標を達成するための措置	5
④	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	6
⑤	財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	6
⑥	教育及び研究並びに組織及び運営の状況についての自己点検及び 評価並びに当該状況に係る情報提供に関する目標を達成するための措置	7
⑦	その他業務運営に関する重要事項を達成するための措置	7
3	組織、業務運営等にかかる改善事項等	8

## 第1 評価の基本的な考え方

高知県公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法第28条第1項及び第2項の規定に基づき、公立大学法人高知工科大学（以下「法人」という。）の平成24年度における業務の実績について、以下の基本的な考え方により評価を行った。

評価の実施に当たっては、法人の当該事業年度における業務の実績及び自己点検・評価を内容とする業務実績報告書及び法人への聴取等に基づき調査・分析を行うとともに、その結果を踏まえて、「項目別評価」及び「全体評価」を行う。

### 1 項目別評価

評価委員会は、次の事項（以下、大項目という。）ごとに、中期計画の達成に向けた業務の進捗状況を勘案して、5段階により評価するとともに、その評価理由を明らかにする。なお、教育研究については、その特性に配慮し、専門的な観点からの評価は行わず、事後の外形的な進捗状況の評価を行う。

#### 〔大項目〕

- ①教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置
  - 1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置
- ②同上 2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置
- ③同上 3 社会貢献の質の向上に関する目標を達成するための措置
- ④業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置
- ⑤財務内容の改善に関する目標を達成するための措置
- ⑥教育及び研究並びに組織及び運営の状況についての自己点検及び評価並びに当該状況に係る情報提供に関する目標を達成するための措置
- ⑦その他業務運営に関する重要事項を達成するための措置

〔5段階〕

- 5：中期計画の達成に向け特筆すべき進捗状況である。
- 4：中期計画の達成に向け順調に進捗している。
- 3：中期計画の達成に向けおおむね順調に進捗している。
- 2：中期計画の達成に向け進捗がやや遅れている。
- 1：中期計画の達成に向け進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

2 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、当該事業年度における業務実績の全体について、記述式により総合的な評価を行う。また、必要がある場合は、法人に対する業務運営の改善その他の勧告事項を記載する。

高知県公立大学法人評価委員会委員

区分	氏名	役職名
委員長	宮田 速雄	株式会社高知新聞社 代表取締役社長
委員	森下 勝彦	株式会社高知銀行 代表取締役頭取
委員	木村 靖二	独立行政法人大学評価・学位授与機構 特任教授
委員	寺田 覚	公認会計士・税理士
委員	船橋 英夫	高知工業高等専門学校 校長

## 第2 評価の結果

### 1 全体評価

高知工科大学は、平成9年の開学以来、「大学のあるべき姿を常に追求し、世界一流の大学を目指す」という高い志を掲げ、有為な人材を育成するとともに、優れた教育研究の成果を社会に還元し、高知県民の生活及び文化の向上に寄与してきた。

平成24年度は、公立大学法人となってから4年目であり、前年度に引き続き、理事長、学長のリーダーシップの下、教育、研究及び社会貢献に関する戦略的な取り組みを進めるとともに、業務運営の改善及び効率化についても、法人全体で推進している。

特筆すべき成果としては、教務システムの更新を行い、学内利用のみに限定されていたサービスを学外から利用できるようにすることで、学生に対するサービスの飛躍的な向上を図ったこと、重点的に課外活動強化を行った結果、全国大会で優勝するなど、多くの課外活動において顕著な成績を上げることにつながったこと、また、マネジメント学部において、AO入試を導入・実施し、想定を大きく上回る志願者があり、それぞれの分野に特化した能力を持つ学生を受入れることができたこと、国際的な研究交流の活発化のため、旅費や研究活動経費を助成する制度を創設するとともに、新たな交流協定を締結していることなどが挙げられる。

その他の項目についても、年度計画を十分に実施していると認められ、全体として、中期計画の目標達成が期待されるものである。

### 2 項目別評価

①教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置	評価	4：中期計画の達成に向け
1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置		順調に推移している

#### ○実施状況の概要及び評価

工学系3学群の学年進行が完成し、予定されていた開講科目は全て順調に開講している。また、マネジメント学部は新たな教育プログラムの開設を決定し、その導入に係る科目の追加を行うなど、PDCAの観点から開講科目等の見直しを行っている。

年度計画では、工学系3学群の卒業生を想定した新たな大学院修士課程教育プログラムを準備するとしており、学際領域分野の知識習得やグローバル人材を育成する教育プログラムを検討したが、年度内の実施準備完了には至らず、引き続き検討している。

特待生制度を継続した結果、優秀な学生の確保につながっている。また、従来の表彰制度を継続するとともに、文武両道で特に優秀な者には特待生資格を付与できるように規程を改正しており、学生に対する支援制度を充実することで、学習意欲の増進につながっている。

教務システムの更新を行い、セキュリティの強化を図るなどの方策をとることにより、学内利用のみに限定されていた成績情報の閲覧や履修登録など、全てのサービスを自宅のパソコンや携帯端末から利用できるようにすることで、学生に対するサービスの飛躍的な向上を図っている。

就職支援に関して、東京、大阪に向けた就職活動支援バスツアーの運行、週単位で就職支援部が把握している学生の就職活動の状況を教員に報告し、情報共有を図るなどのきめ細かな支援を行った結果、就職内定率は全体で96.2%となり、全国平均を上回っている。特に、システム工学群では99.0%という高い就職率を達成している。

学生の課外活動を支援するため、学生支援バスの運行や活動支援費の増額を行うとともに、重点的に課外活動の強化を行った結果、女子の全国国公立大学卓球大会で優勝するなど、多くの課外活動で顕著な成績を上げることにつながっている。

学生の受入れに関して、マネジメント学部において、AO入試を導入・実施したところ、若干名の応募に対し、想定を大きく上回る75名の志願者があり、それぞれの分野に特化した能力を持つ24名の学生を受入れている。AO入試と特別推薦入試が、平成27年度の学部の改組・拡充に伴う定員増に対処する有効な方策となることを確認している。

その他、健康管理センターを新設し、全学的な健康管理体制の充実も図っているなど、年度計画を十分に実施していない項目が1項目あるものの、教育の質の向上に向けて着実に取り組んでいると認められることから、全体として、計画どおり順調に進捗していると評価できる。

②教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置	評価	4：中期計画の達成に向け
2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置		順調に推移している

○実施状況の概要及び評価

交流協定締結大学との研究交流、卒業し帰国した元留学生との研究交流に伴う旅費や研究活動経費を助成する制度を創設し、運用を開始するとともに、新たに6大学と交流協定を締結するなど、国際的な研究交流の活発化に取り組み、新たな留学生や外国人研究員の受入れを行っている。

これまでの論文発表や特許等の研究成果をもとに企業と受託・共同研究を行っている。その結果、スラリーアイス製造装置を用いた中土佐町「びんぴ」の商品・製品化につなげるなどの成果を上げている。また、医工連携の強化推進策として、高知

大学医学部との意見交換会を実施するなど、戦略的な大学連携事業を推進している。

総合研究所では、新たに脳コミュニケーション研究センターをはじめとする3センターと2研究室を整備し、重点的な研究費の配分等の支援を行うことで、研究領域の拡張と高度化を図っている。

その他、附属情報図書館についても、新図書の購入や広報誌での情報発信により、利用促進を図り、図書貸出冊数・入館者数の増加につなげていることなどから、全体として、計画どおり順調に進捗していると評価できる。

③教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 3 社会貢献の質の向上に関する目標を達成するための措置	評 価	4：中期計画の達成に向け 順調に推移している
--	-----	---------------------------

○実施状況の概要及び評価

地域連携に関して、地域連携機構に新たに2名の教員を配置するとともに、昨年に引き続き、プログラムオフィサー、地域連携コーディネーターを配置し、自治体への地域振興政策の提言や行政マネジメントの実践等を通じて地域振興の支援を行っている。また、高知県の太平洋沿岸19自治体に関する大型地震による津波シミュレーションを実施し、各自治体の防災計画作成の支援も行っている。

学長裁量研究費で高知県特産品の外商に関する実証の取り組みなど4件を支援している。

高知県が主催する「土佐まるごとビジネスアカデミー（土佐MBA）」に参画し、高知県内の社会人に対するマネジメント教育の主要な部分を担当するなど、地域のニーズに応える公開講座を実施している。

開学以来初めて全学対象の地震防災訓練を実施するなど、全学で防災に関する取り組みを強化している。また、「防災ガイドブック」と「地震災害対応マニュアル」を作成し、全学生、教職員に配付することにより、全学での防災意識の向上も図っている。

地元企業と共同研究を開始した凍結濃縮装置の開発が四国経済産業局の補助事業の採択を受けるなど、大学主導での積極的な産学官連携による研究推進を図っている。

その他、県内の小・中・高等学校を対象とした訪問教育の実施や見学希望者の受入れなど、地域の教育機関との連携も図っていることなどから、全体として、計画どおり順調に進捗していると評価できる。

~~その他、新たに6大学と交流協定を締結するなど、国際交流を活性化させる取り組みについても着実に推進していることなどから、全体として、計画どおり順調に進捗していると評価できる。~~

④業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	評価	4：中期計画の達成に向け 順調に推移している
-------------------------------	----	---------------------------

○実施状況の概要及び評価

入試・広報センター、地域教育支援センター及び健康管理センターの設置など、意思決定の迅速化及び業務の効率化を目的とした組織体制の改善を図っている。

教員に関する評価システムの一部を改正している。また、事務職員についても、準職員に対して職責評価と職能評価を導入し、賞与や能力給に反映させるなど、評価制度の見直しを行っている。

教員評価のデータを一元化し、事務処理をシステム化したほか、異なるシステムのデータベースをつなぐ仕組みを構築し、学籍情報を教務システムに一元化している。

その他、階層別研修及び各部門別専門研修に積極的に参加するなど、事務職員の高めるための活動も行っていることなどから、全体として、計画どおり順調に進捗していると評価できる。

⑤財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	評価	4：中期計画の達成に向け 順調に推移している
--------------------------	----	---------------------------

○実施状況の概要及び評価

科学研究費助成事業の採択率向上のため、研修会を開催するとともに、研究開発コーディネータによる個別相談会を昨年度に引き続き毎月開催している。その結果、挑戦的萌芽、若手研究Bで採択が増加している。

年度計画では、効率的な業務執行を行うため、勤怠管理システムを導入する計画としており、システムの導入を行うため入札を行ったが、不調に終わり、導入できていない。

固定資産について現物確認を実施するとともに、資産の使用状況を調査し、遊休資産が発生していないことを確認している。

また、購入した資産についても確実に資産台帳に登録し、効率的かつ確実な運用・管理を行っており、年度計画を十分に実施していない項目が1項目あるものの、財務内容の改善に向けて着実に取り組んでいると認められることから、全体として、計画どおり順調に進捗していると評価できる。



⑥教育・研究及び組織運営に関する自己点検・評価並びに情報提供に関する目標を達成するための措置	評 価	4：中期計画の達成に向け順調に推移している
--	-----	-----------------------

○実施状況の概要及び評価

年度計画の進捗状況を取りまとめることにより、目標達成に向けての確認を行っている。また、あわせて中期計画についても進捗状況の取りまとめを行い、中期目標達成に向けての準備を行っている。

大学基準協会の評価を受審し、適切な運営を行っていることが認められている。

教育情報について、継続して大学ホームページで公開している。また、入試情報や入札情報についても積極的に公開している。

その他、論文等のリポジトリ（大学の知的資産の公開サイト）登録を継続して行い、情報発信の内容充実にも努めていることなどから、全体として、計画どおり順調に進捗していると評価できる。

⑦その他業務運営に関する重要事項を達成するための措置	評 価	4：中期計画の達成に向け順調に推移している
----------------------------	-----	-----------------------

○実施状況の概要及び評価

使用頻度の低い施設を改装することにより、施設の有効利用を図っている。また、監視カメラの設置や警備室にて常時監視できるシステムの導入によるセキュリティ向上、緊急地震速報システムに対応した放送設備の更新による防火防災の管理強化を行っている。

非常時における香美市及び他機関との連絡体制の強化や非常食等の購入など、大規模災害時の避難場所として対応できる体制を整えている。

コンプライアンスの説明を掲載した教職員便覧を新たに作成し、コンプライアンスの推進について学内への周知徹底を図っている。

その他、節電対策についても、全学をあげて取り組んだ結果、エネルギー消費原単位で対前年度比4.6%の削減成果を挙げていることなどから、全体として、計画どおり順調に進捗していると評価できる。

### 3 組織、業務運営等に係る改善事項等

特に改善勧告を要する事項はない。